

087

contents

常設展
マン・レイ写真展
年間スケジュール

天花
TENGE
花



松田正平「大きな魚(おひょう)」1984年 山口県立美術館蔵

常設展

小林和作室

「小林和作と松田正平」

2/11^{tue}～3/30^{sun}

表紙作品解説

松田正平「大きな魚(おひょう)」1984年
油彩・画布 72.7×116.7cm 山口県立美術館蔵

松田正平が「油彩に新鮮、自在な世界を切り拓いた」として第16回日本芸術大賞を受賞したのは昭和59年。その年、本図は完成している。小林秀雄が「今一番の評論家」と評し、青山二郎には「芸術新潮では洲之内しか読まない」と言わしめた洲之内徹は、その当時の松田正平を評して「いまの日本の絵かきの中で、いちばん美しい絵はだ(マチエール)を持っている一人」と書いた。そうした評言が確かめられる1点である。洲之内の評論を介して松田を知った白洲正子は、その後、「魑魅は易し犬馬は難し」という具象絵画の要諦を頑ななまでに実践してきた松田洋画の魅力を、練達なエッセイで綴ることになる。それから20年近くが経過。以後の画境の進展とともに松田洋画は、すでに鬼籍に入った彼らが称えた当時をまして純度を加え、澄んだマチエールはかつて以上に輝きを放っている。(安井雄一郎 学芸専門監)



三輪龍作「柔らかな海I」1996年
山口県立美術館蔵(「前衛陶芸」より)

香月泰男室

「シベリア・シリーズⅢ」～2003/1/5
「シベリア・シリーズⅣ」2003/1/7～3/30

三隅町出身の香月泰男(1911～1974)は、シベリア抑留を経験し、復員後その重い体験を「シベリア・シリーズ」として描き残しました。当館では、同シリーズを抑留体験の順を追って紹介しています。シベリア・シリーズⅢでは捕虜時代をモチーフにした作品を、シベリア・シリーズⅣではシリーズの最後にあたる、収容所を出発した後の、ナホトカを経て復員してくる時期をモチーフにした作品を展示します。



香月泰男「復員(クラブ)」1966年
山口県立美術館蔵(「シベリア・シリーズⅣ」より)



林忠彦「煙草をくゆらす浮浪児」1946年
山口県立美術館蔵

郷土工芸室

「萩の茶陶」～2003/1/5
「前衛陶芸」2003/1/7～3/30

「前衛陶芸」:土を使って新しい造形表現を模索している作家たちの作品を紹介します。

資料展示室

「本庄光郎」11/19～2003/1/5
「林 忠彦」2003/1/7～2/9
「金井精一」2/11～3/30

「林 忠彦」:徳山市出身の写真家、林忠彦(1918～1990)は、太宰治や坂口安吾といった「無頼派」と呼ばれた文士たちのポートレートで知られています。このたびの展示では、戦後の混乱をたくましく生きている庶民の姿を写した「カストリ時代」など、当館所蔵の20点を紹介します。

マン・レイってだれ? どんな写真を撮って

— 展覧会を120%楽しむための7つの質問 —

皆さんに今回の写真展を楽しんでいただけるようマン・レイの魅力についてQ&Aでご紹介します。はじめて名前を聞いた人も、写真の魅力を知りたい人も、ぜひ、会場に足を運ぶ前に読んでみてください。

マン・レイ写真展

2002年12月20日(金) - 2003年2月2日(日)

休館日: 月曜日(ただし12月23日・1月13日は開館し、12月24日・1月14日が休館)、年末年始(12月28日~1月3日)

【開館時間】 9:00-17:00(入館は16:30まで)

【観覧料】 一般1000円(800円) 学生800円(600円)

()内は前売りおよび20名以上の団体料金 18歳以下、70歳以上の方、および高等学校、盲・聾・養護学校に在籍される方は無料

前売り券はローンチケット(Lコード69304)、チケットぴあ(Pコード468-494)、及び県内各プレイガイドでお求め下さい。

【主催】山口県立美術館・毎日新聞社・TBSテレビ 【協力】エクセ・コレクション

山口県立美術館 〒753-0089 山口市亀山町3-1 tel.083-925-7788

関連企画

■ 講演会 「マン・レイとファッションデザイナーたち
— ポワレ、シャネル、スキャパレリ」

1月26日(日) 14:00~ 山口県立美術館講座室

【講師】水谷由美子(山口県立大学教授) 聴講無料

■ 学芸員による作品解説

1月18日(土)・1月25日(土)・2月1日(土) 14:00~

■ 親子ワークショップ 「光であそぼう」

いろいろなものを日光写真で写してみよう。

1月11日(土) 13:00~15:00 1月18日(土) 13:00~15:00

【対象】小・中学生と保護者 【講師】大田道洋(写真家)

※参加ご希望の方は、往復はがきに氏名・年齢・住所・電話番号をご記入の上、山口県立美術館までお申し込み下さい。
各日とも先着20組で締め切らせていただきます。

MAN RAY

PHOTOGRAPHIES DE MAN RAY
2002.12.20-2003.2.2
THE YAMAGUCHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART



るの？

Q マン・レイって本名ですか？
どこの国の人なの？

A 両親がロシアからアメリカに移民して、アメリカでマン・レイは生まれました。

本名はエマニュエル・ラドニツキー。マン・レイという名前の意味は、「光(レイ)の人(マン)」と考えることもできます。写真家マン・レイにはぴったりの名前ですね。



Q 光っているように写っている写真は、どうやって撮っているのですか？

A 現像をするときに強い光をあけると、輪郭がくっきりとして周辺が光ったようになります。ソラリゼーションと呼ばれる技法で、マン・レイがよく使っています。



Q どこでいつごろ活躍していた人ですか？

A 1890年に生まれ、1976年に亡くなっています。1921年まではニューヨークで、その後パリに渡り、マルセル・デュシャンやピカソたちと共にシュルレアリスム運動にかかわって作品を発表していました。最先端の活動をする一方で、新しいファッションを撮った写真がファッション雑誌の『ヴォーグ』にも多く載っています。

Q 影だけが写っている写真は、どうやって撮っているのですか？

A カメラを使わないで、印画紙に直接ものを置いて光にあてて撮影します。マン・レイの名前をとって、レイヨグラフと呼ばれる。



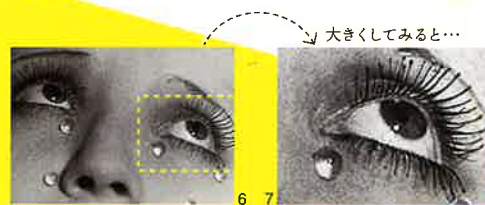
Q この人、とってもきれいに写っているけど誰ですか？

A キキと呼ばれていたモデルさんです。1920年代のパリでとても人気のあるモデルでした。キスリングや藤田嗣治など多くの画家が彼女をモデルにして描いています。キキはマン・レイの恋人でした。マン・レイはキキをモデルに映画も撮っています。展覧会ではその映画も上映します。



Q どうして同じものを撮った写真がいくつもあるのですか？

A マン・レイは1枚の写真の部分だけを取りあげて、全く印象の違う作品にしてしまいます。同じモデルでも、ちょっとした向きの違いや、クローズアップの違いを比較するとおもしろいですね。



大きくしてみると...

Q マン・レイは写真しか作っていないのですか？

A 絵画、オブジェ、写真、映画、詩など色々な作品を残しているアーティストです。ダダイズムやシュルレアリスムと呼ばれる、前衛芸術運動の中心で活躍しました。そのなかでも、今回は写真の作品559点と短篇映画5本を紹介します。

切り取って表裏逆にしてる？



| | |
|----|--|
| 4 | 4/20~6/2 モンテ・デ・パルメ・デ・シエナ展 シエナ美術展 「世界遺産都市の空を 絵画・彫刻・工芸の精華」 |
| 6 | 6/7~6/16 第25回伝統工芸新作展 |
| 7 | 6/22~7/28 雪村展 戦国時代のスーパー・エキセントリック |
| 8 | 8/6~8/11 山口県・由東谷友好記念事業 第20回社団法人山口県書道連盟展 8/16~8/25 ふるさとのアーティストたち ～山口県芸術文化関係表彰の基みと作品～ |
| 9 | 9/12~9/29 第6回やまぐち県民文化祭 第56回山口県美術展覧会 |
| 10 | 10/16~11/24 ジャン＝マルク・ピュスタモント展 |
| 12 | 12/10~12/15 第55回学校美術展覧会 |
| 1 | 12/20~2014/2/2 マン・レイ写真展 |
| 2 | 2/6~2/9 山口県立大学卒業制作展 2/13~2/16 山口大学卒業制作展 2/20~2/23 山口芸術短期大学卒業制作展 |
| 3 | 2/28~3/9 子どもたちの粘土の未来 ～子どもと、粘土と、創り出す喜びと～ |

| | | | |
|-------|----------------------|-----------------------|--|
| 4/9 | 山口の工芸 シベリア・シリーズ I | 寄贈作品展 | 牛腸茂雄 (2) 5/19 5/21 大辻清司 |
| 7/7 | 7/9 | 現代の萩焼 シベリア・シリーズ II | 8/6 華麗なる花鳥画 8/25 8/18 8/20 岩宮武二 |
| 10/6 | 10/8 | 雪舟派と雲谷派 (1) | 植田正治 |
| 11/17 | 11/19 | 萩の茶陶 シベリア・シリーズ III | 11/17 11/19 11/17 11/19 |
| 1/5 | 1/7 | 雪舟派と雲谷派 (2) | 本庄光郎 |
| 2/9 | 2/11 | 前衛陶芸 シベリア・シリーズ IV | 2/9 2/11 小林和作と 松田正平 金井精一 |
| 3/30 | | | |

Information

■休館日
毎週月曜（特別展会期中の月曜が祝日もしくは振替休日の場合は翌日休館）
年末年始（12月28日～1月3日）
2月11日、3月21日

■開館時間
9:00～17:00（入館は16:30まで）

■料金
常設展：一般190（160）円 学生120（100）円
（ ）内は20名以上の団体料金
特別展：別途に定めた料金

常設展・特別展ともに18歳以下と70歳以上および高等学校、
盲・聾・養護学校在学する方等は無料。
教育文化週間11月1日～11月7日は全ての方が無料。

山口県立美術館
The Yamaguchi Prefectural
Museum of Art
〒753-0089
山口市亀山町3-1
TEL: 083-925-7788
FAX: 083-925-7790
<http://www.pref.yamaguchi.jp/kenbi/index.htm>

